

☆四旬節第1主日(2月18日)の聖書朗読☆※主任司祭からの解説があります。

第一朗読 (創世記 9章 8-15節)

神はノアと彼の息子たちに言われた。「わたしは、あなたたちと、そして後に続く子孫と、契約を立てる。あなたたちと共にいるすべての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獣など、箱舟から出たすべてのもののみならず、地のすべての獣と契約を立てる。わたしがあなたたちと契約を立てたならば、二度と洪水によって肉なるものがことごとく滅ぼされることはなく、洪水が起こって地を滅ぼすことも決してない。」更に神は言われた。あなたたちならびにあなたたちと共にいるすべての生き物と、代々としえにわたしが立てる契約のしるしはこれである。すなわち、わたしは雲の中にわたしの虹を置く。これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。わたしが地の上に雲を湧き起こらせ、雲の中に虹が現れると、わたしは、わたしとあなたたちならびにすべての生き物、すべて肉なるものとの間に立てた契約に心を留める。水が洪水となって、肉なるものをすべて滅ぼすことは決してない。

第二朗読 (使徒ペトロの手紙 I 3章18-22節)

愛する皆さん、キリストは罪のためにただ一度苦しまりました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しまれたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです。そして、霊においてキリストは、捕らわれていた霊たちのところへ行って宣教されました。この霊たちは、ノアの時代に箱舟が作られていた間、神が忍耐して待っておられたのに従わなかった者です。この箱舟に乗り込んだ数人、すなわち八人だけが水の中を通過して救われました。この水で前もって表された洗礼は、今やイエス・キリストの復活によってあなたがたをも救うのです。洗礼は、肉の汚れを取り除くことではなくて、神に正しい良心を願い求めることです。キリストは、天に上って神の右におられます。天使、また権威や勢力は、キリストの支配に服しているのです。

福音朗読（マルコによる福音書 1章 12-15節）

それから、“霊”はイエスを荒れ野に送り出した。イエスは四十日間そこにとどまり、サタンから誘惑を受けられた。その間、野獣と一緒におられたが、天使たちが仕えていた。ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤへ行き、神の福音を宣べ伝えて、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めて福音を信じなさい」と言われた。

朗読解説 一主任司祭より皆様へ一

少し暖かくなりましたね。春の訪れを感じます。先週の水曜日から四旬節が始まり、今日は四旬節第一主日です。四旬節の目的は主イエスの受難と復活に備えて、心を神に向き直すために、祈りと節制に励むことです。ただ単に祈りと節制をしても意欲がわかないかもしれません。そんな時は、するその意味を知ることが必要だと思います。四旬節の祈りと節制の意味は主なる神が私たち人間の弱さによる罪を許し、神とともに生きるための力を与えてくださるようになるためなのです。イエスは神でありながら人となって生活し、神の国を知らせたにもかかわらず、多くの人の無理解と妬みのために十字架を背負い、死んだのです。でも神はそのイエスを復活させることによって、イエスを救い主と信じ、従って生きる人にイエスと同じ復活の恵みをくださるのです。

第一朗読（創世記 9章 8-15節）

アダムとエワの頃からずっと後の時代に、人々は神から離れた生活を送っていました。そんな人々の間に神に忠実な生活をしていたノアを救い、ほかの人々を滅ぼすために大洪水を起こされたと聖書は述べています。これによりノアの一族は救われますが、神はノアと一つの契約を交わします。「人類を滅ぼさない」という印として「雲の中に虹を置く」と言われたのです。「滅ぼさない」という意味は「救いたい」という意味でもあるのでしょうか。

第二朗読（使徒ペトロの手紙Ⅰ 3章 18-22節）

使徒ペトロは主イエスに一番近くに従っていた人でした。ペトロは主イエスの十字架での死と復活は私たちが神のもとに導くためだったと述べ、そのための印である洗礼の意味を述べています。洗礼は水によって救われノアの箱舟の意味であり、神に正しい良心を願い求めることだと諭しています。このような真理をペトロに示してくださった聖霊の力を私たちも願い求めましょう。

福音朗読（マルコによる福音書 1章 12-15節）

イエスが宣教活動を始める前に、四十日間にわたってサタンの誘惑を受けられたことをマルコは教えてくれます。この四十日間すなわち四旬節はここから取られていると言われてはいますが、ほかにはノアの大洪水の四十日間の大雨や、イスラエルの民が砂漠で四十年にわたって彷徨ったことなどもその意味を含んでいると言われてはいます。この四旬節は四十日間で終わりますが、悪霊との戦いは一生継続します。主イエスにとってこのような修行は必要ではなかったでしょうが、私たち凡人にとって罪の誘惑はいつもあります。その誘惑に打ち勝つには神のこぼれを聞くことや生活の中心に神の心を感じる事、罪の誘惑に対してははっきりと「否」と拒否することが大切だと教えるためであったと思います。イエスの言葉を毎日の生活の中に取り込むことが誘惑に打ち勝つ秘訣です。



黒部第四ダムの放水によって現れた「虹」（2023年7月）

P.S.

四旬節中の金曜日の夜 7 時には、十字架の道行きを行っています。都合のつく方はどうぞご参加ください。

**カトリック足立教会
主任司祭 野口重光**